

◆今期間のポイント

<主要じょう乱の概要>

- 18日は、高気圧が本州付近から日本の東へ移動するが、東・西日本付近に高気圧の勢力が残る。前線もしくは気圧の谷が沖縄・奄美から日本の南にのびて北上する。
- 19日から22日にかけては、前線もしくは気圧の谷が沖縄・奄美を北上し、日本の南岸付近にのびる。日本付近には南から湿った空気が流れ込む。
- 21日は、気圧の谷が北日本を通過する。

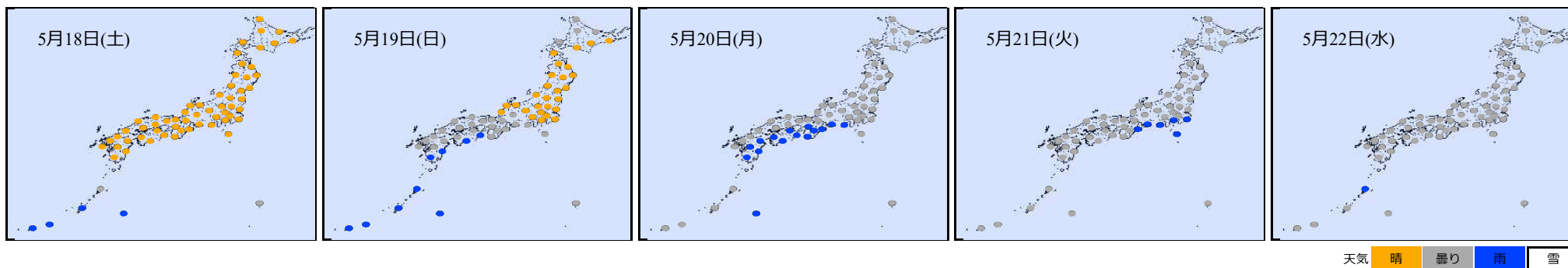
<防災事項> 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- 令和6年能登半島地震で揺れの大きかった地方は地盤の緩んでいる所があり、少しの雨でも土砂災害の危険度が高まるおそれがある。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

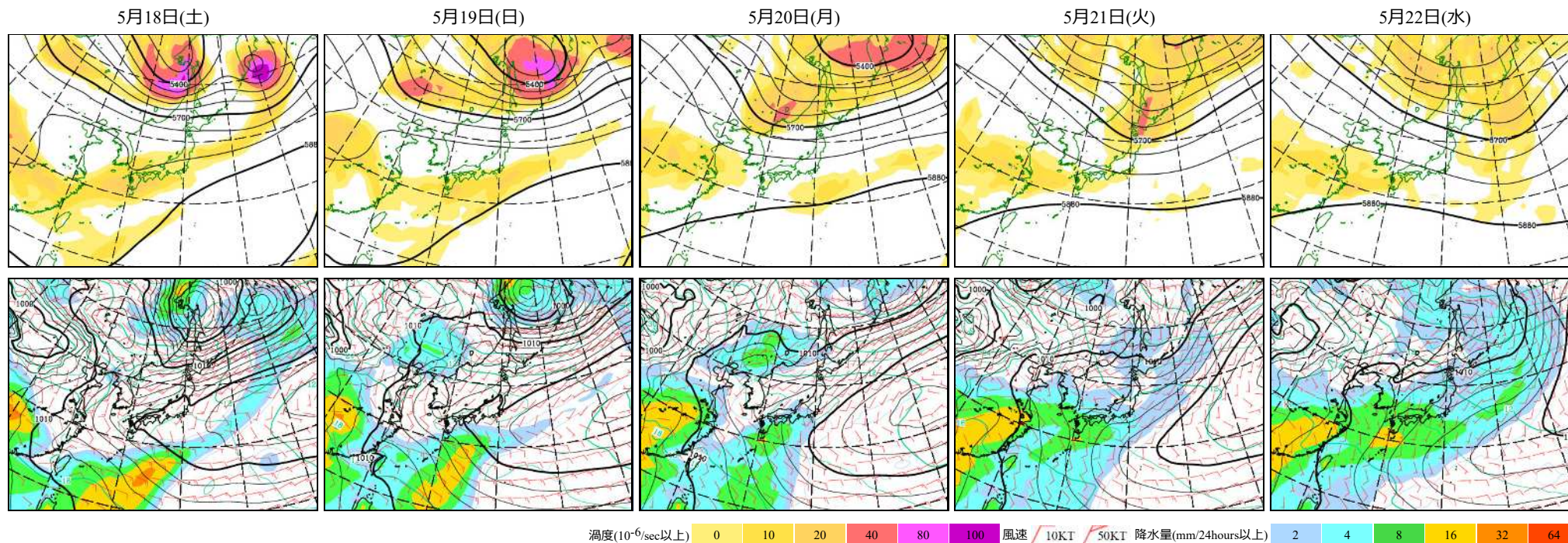
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

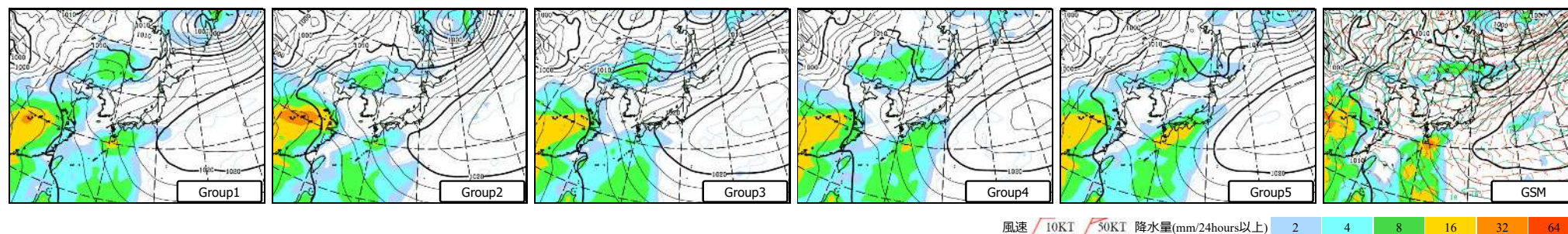


- 北日本は、18日と19日は晴れる所が多いが、20日から22日にかけては雲が広がりやすい。
- 東日本は、18日と19日は晴れる所が多い。20日から22日にかけては曇りで雨の降る所がある。
- 西日本は、18日は晴れるが、19日から22日にかけては雲が広がりやすく雨の降る所がある。
- 沖縄・奄美は、18日から22日にかけて雲が広がりやすく、雨の降る日もある。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆5月20日のENSクラスター平均(グループ1~5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料 (ENS) は、昨日資料からの初期値変わりが大きい。期間の中頃に東・西日本付近を進むトラフが浅まり、東・西日本太平洋側への暖湿気の流入が弱まった。
- ENSとGSMは昨日資料から大きく初期値変わりして、海外モデルとの差が大きくなった。19日以降の前線や低気圧の予想については、不確実性が大きくなっている。海外モデルのように、19日から20日頃に九州の南から四国の南付近に低気圧を予想するアンサンブルメンバーは数メンバー程度と少ない。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 期間の中頃のENSの予想は初期値変わりして、海外モデルとの相違が大きくなっていることから、海外モデルや昨日のENSの予想も考慮して予報を作成する。

今日から明後日までの解説は「短期予報解説資料」を参照ください。